

Wi-Fi事業の現状と取り組み



NTTBP

代表取締役社長 南川 夏雄

2014年11月11日 Wi-Fi 整備推進WG

Wi-Fi整備推進WGの検討事項

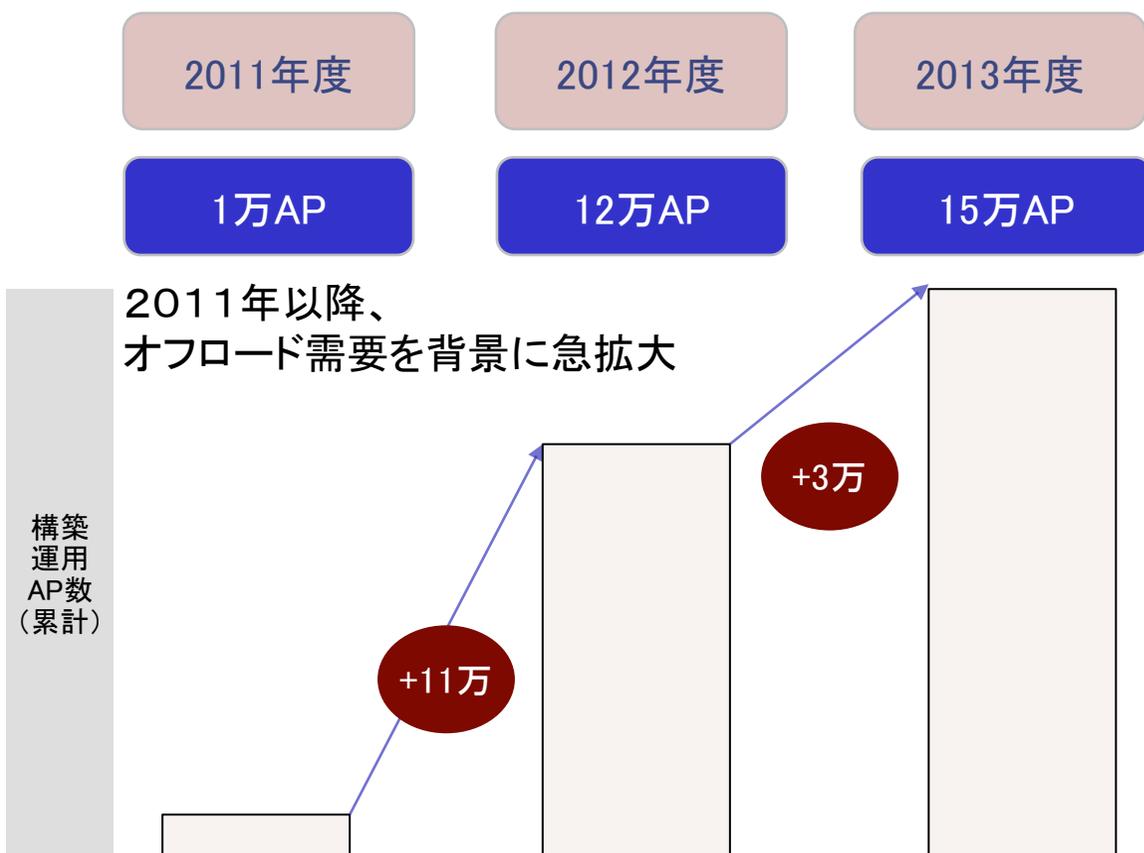
- 地方の魅力や埋もれた観光資源を積極的に発信していくための官民連携による観光地等でのWi-Fi整備計画
- 2020年の東京オリンピックに向けた観光情報の多言語対応等、地方と世界を効果的に結びつける国際展開方策

本日のアジェンダ

1. NTTBP社の事業概要
2. 無料公衆無線LANの提供
3. Japan Connected-free Wi-Fi
4. Wi-Fiクラウドの導入事例
5. 官民連携によるWi-Fi環境整備
6. Wi-Fiの技術推移と特徴

- ・NTTグループの無線LAN(Wi-Fi)事業専門会社＝「第三のアクセス」事業
- ・ビジネスモデル B2B2B/Cが基本 15万の無線接続ポイント(AP)を提供中
- ・通信キャリア向け設備卸事業、Wi-Fiクラウド事業を展開

業績推移



【空港・鉄道】



【自治体】【コンビニ】



【カフェ】【スタジアム】



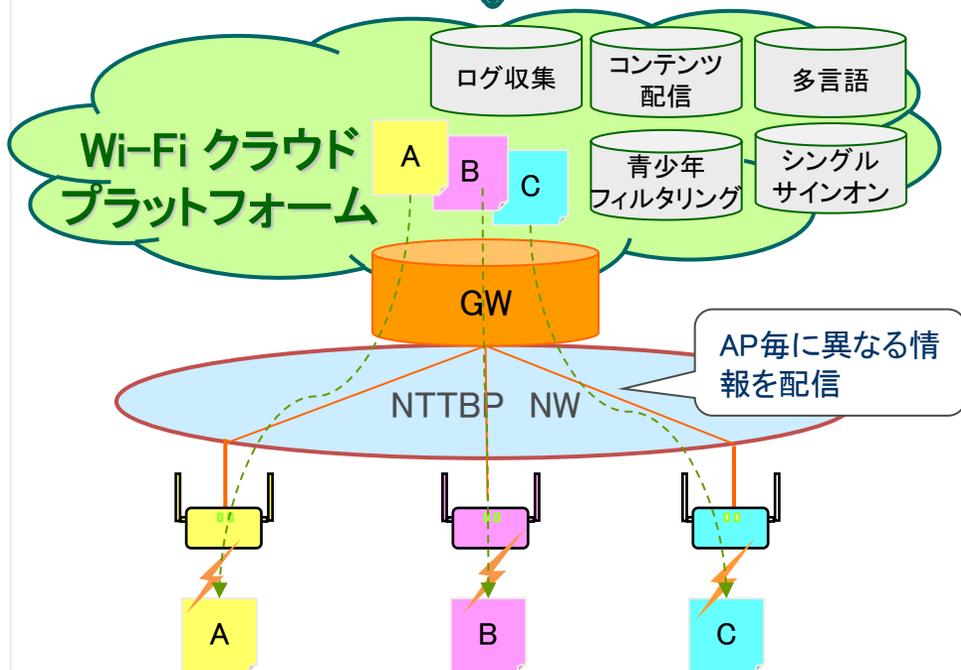
※AP: アクセスポイント:
Wi-Fiに接続できる場所

【背景】・無料公衆無線LANサービスを提供したい、情報発信したい企業や自治体等からの需要

【特徴】・「オープンアクセス」 外国人も含め誰でもが利用できる(キャリアフリー)
 ・「ダイレクトアクセス」 ネット接続後、エリアオーナーのポータル画面を表示
 ・ エリアオーナー毎に、ポータル画面作成、ログ収集・報告等を実施

< NTTBP Wi-Fi クラウドの基本機能 >

各企業等のコンテンツ、アプリ



APを設置した企業や自治体⇒エリアオーナー



成田空港
羽田空港

自治体として
観光客むけに
無料Wi-Fiを
展開したい



各店舗ごとに
クーポンや
コンテンツを配信
したい



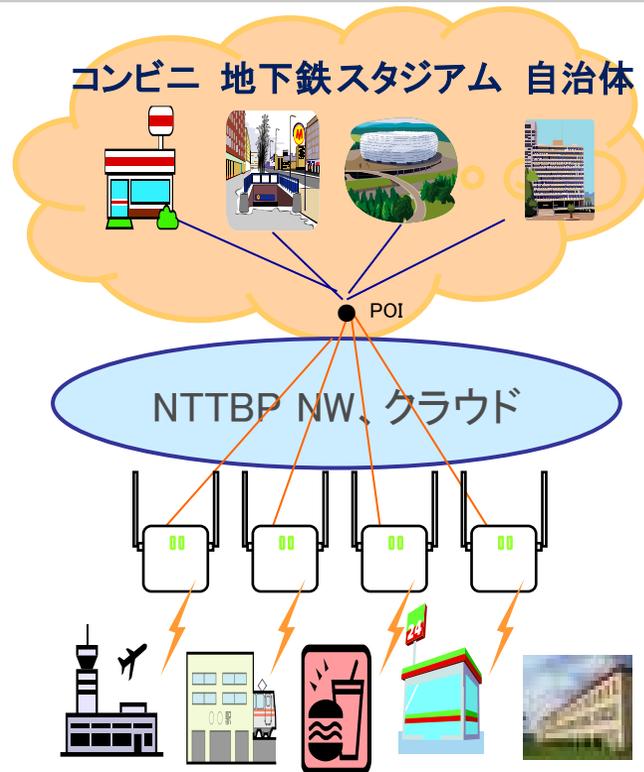
・企業・自治体等 インターネット接続からポータル画面までのサービスを実現

特徴

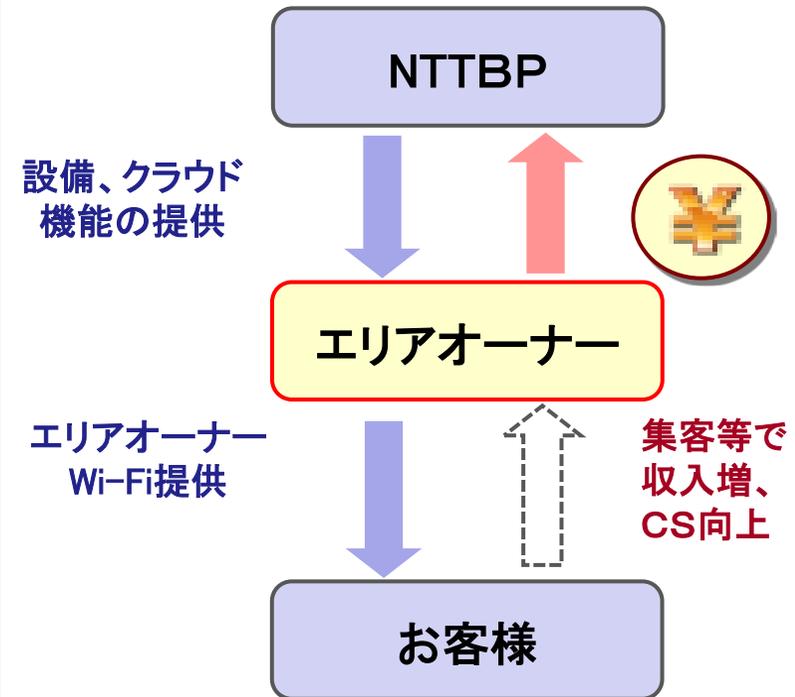
【企業、自治体向け】

- エリアオーナーWi-Fi
- お客様は利用料金無料 (利用条件は区々)
- エリアオーナーWi-Fi毎に登録が必要

設備構成



ビジネスモデル



【課題】エリアオーナーWi-Fi毎の利用登録が面倒



- ・認証連携し、シングルサインオンを実現
- ・無料で、利用登録は1度だけ、多言語に対応した「Japan Connected-free Wi-Fi」アプリを提供開始(2013年11月)
 - ⇒観光庁ビジットジャパンの各国プログで紹介
 - ⇒MM総研大賞2014最優秀賞受賞(2014年7月)
 - ⇒多言語翻訳ツール、トラベルツールを追加(2014年9月)



フリーWi-Fiが使える
エリアが少ない...

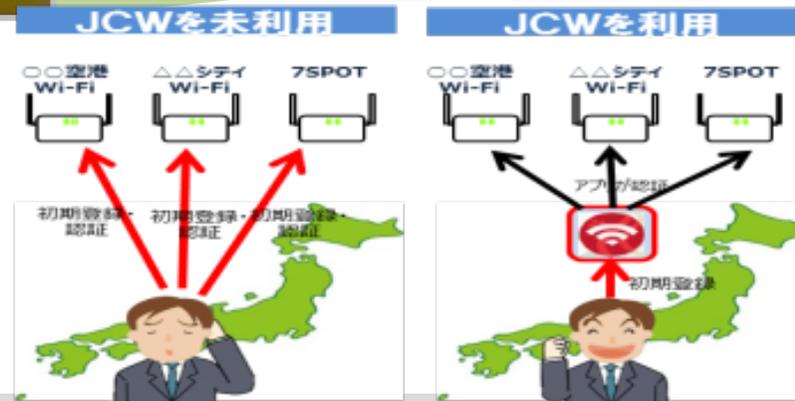
エリア毎に接続手順が
区々で分かり辛い...



どこに行けば使えるか
分からない...

エリア毎に認証手続きが
必要で煩瑣...

現在、8.6万APで
シングルサインオンを実現





多言語音声翻訳アプリを連携することで訪日外国人の満足度を更に向上



エリアオーナー様が提供しているアプリやWebページをご紹介します

Wi-Fiクラウドの導入事例①:福岡市様

- ・4ヶ国語対応のポータルサイトを提供
- ・無料インターネット、エリア紹介、市の情報や観光情報等を配信
- ・災害発生時には、緊急情報配信、無料インターネット開放が可能

4カ国語対応
(日・英・中・韓)

外国語表示例



ポータル画面



無料インターネットエントリー画面
メールアドレス登録後、「無料インターネット」へ接続
→観光情報サイト「よかなび」へリダイレクト



エリア紹介画面



観光関連情報やモデルコース、
口コミ情報などを入手可能

スタンプラリー (期間限定で提供)

例:黒田官兵衛スタンプラリー



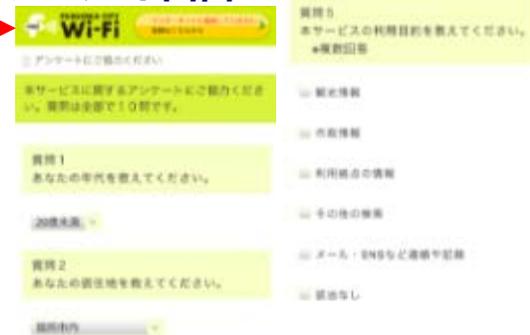
エリアによって
異なるスタンプをゲット

全て集めたら
商品応募

災害発生時(情報配信、無料インターネット開放)



アンケート画面



JTBグループとNTTグループは訪日外国人に日本での観光をより楽しんで頂き、地域を活性化することを目指して、福岡市及び周辺観光地にてWi-Fiを活用した訪日外国人向け観光サービスの実証実験「地域活性化トライアル」を2014年10月14日より実施

1. 期間

2014年10月14日(火)～2015年3月31日(火)

2. 概要

本トライアルでは、訪日外国人にニーズの高い公衆無線LANサービスと観光地、グルメ、買物等の観光情報、お得なクーポン等を複数の言語(日本語、英語、中国語(繁体字、簡体字)、韓国語)で提供するスマートフォン/タブレット向け専用アプリケーション(以下、専用アプリ)をご利用頂くことにより、従来以上に満足度の高い観光体験を創出します。

3. 専用アプリの特徴

- <1> JTBグループが持つ豊富な観光情報を多言語化し、アプリで閲覧することが可能
- <2> J CWアプリの機能を搭載
- <3> お客様にあった情報をタイムリーに配信

(NTT持株会社報道発表資料より抜粋)

【アプリ利用イメージ】



- ・外国人観光客の滞在中のニーズに応えるため、公共施設での無料公衆無線LANサービス「Hiroshima Free Wi-Fi」の展開を推進。
- ・災害発生時は、無料インターネット開放が可能。

【実証実験期間】

平成26年10月～平成27年9月

【「Hiroshima Free Wi-Fi プロジェクト」報道発表資料 抜粋】

(1) 外国人観光客向け無料公衆無線LANサービスの面的拡大

(観光政策に基づくWi-Fi基盤整備)

- ① 実証実験期間中のHiroshima Free Wi-Fiアクセスポイント拡充
- ② 官民協業による無料公衆無線LANサービス”Hiroshima Free Wi-Fi Lite”の創設と面的拡大

※ 災害発生時は、すべてのHiroshima Free Wi-Fi拠点にてインターネットへの接続に係る制限を解除する等、外国人観光客の安全・安心の確保の点からの取組も実施。



観光政策
への反映

地域活性化に貢献

Wi-Fi基盤
を活用

(3) 無料公衆無線LANサービスの利用実態把握

(観光政策への活用可能性検討)

- (1)、(2)の取り組み結果をデータ分析することにより利用実態を把握

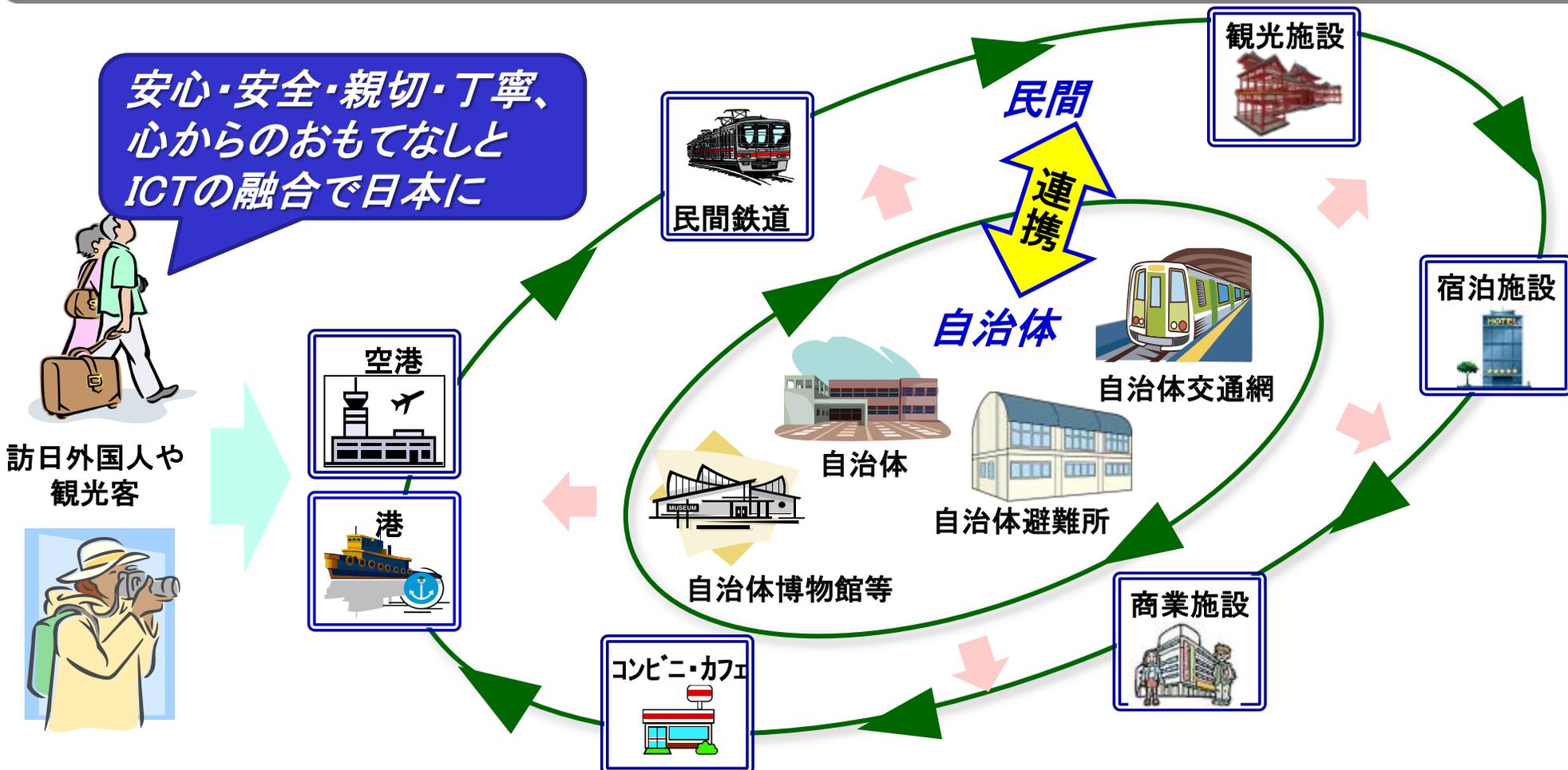
(2) 観光情報等(観光施設、飲食店等)の提供サービス

(サービス有用性検証)

- 観光施設、及び商業施設でのコンテンツ提供
(画像、映像、おもてなし情報等)

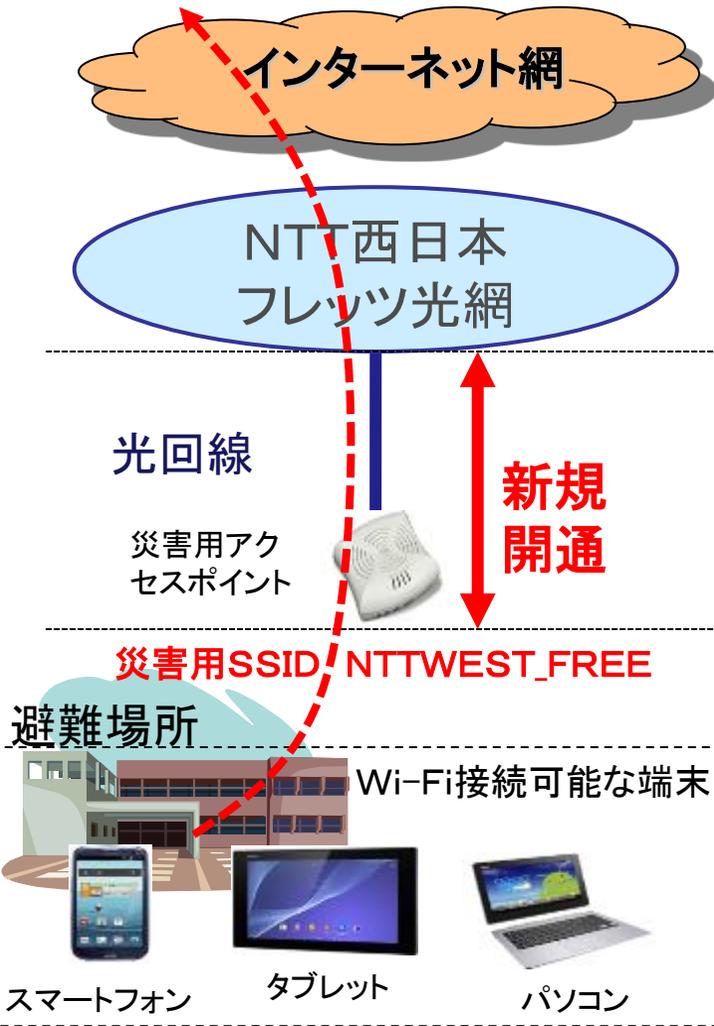
官民連携によるWi-Fi環境整備

- ・官民連携により、効率・効果的に地域のWi-Fiのエリア化を実現することで、街の回遊を図り、訪日外国人や観光客を誘引し、地域全体を活性化。
- ・自治体等に対する補助事業を利用することにより、災害時の避難場所等に対して、有効な通信手段であるWi-Fiのエリア化を実現することで、安心・安全な環境を構築。



災害時の特設Wi-Fi(広島土砂災害復旧支援)

- ・平成26年8月の豪雨に伴い発生した広島土砂災害における避難所に、特設Wi-Fiを設置
- ・避難者に対し、NTT西日本提供の無料インターネット接続サービスを提供



避難所 10 拠 点 に 設 置

この近くで
特設無料Wi-Fi
使えます。

SSID NTTWEST-FREE

ご利用方法

Android iPhone

① 「設定」→「無線とネットワーク」→「Wi-Fi」を「ON」にします。
② 「Wi-Fi設定」→「NTTWEST-FREE」を選択します。

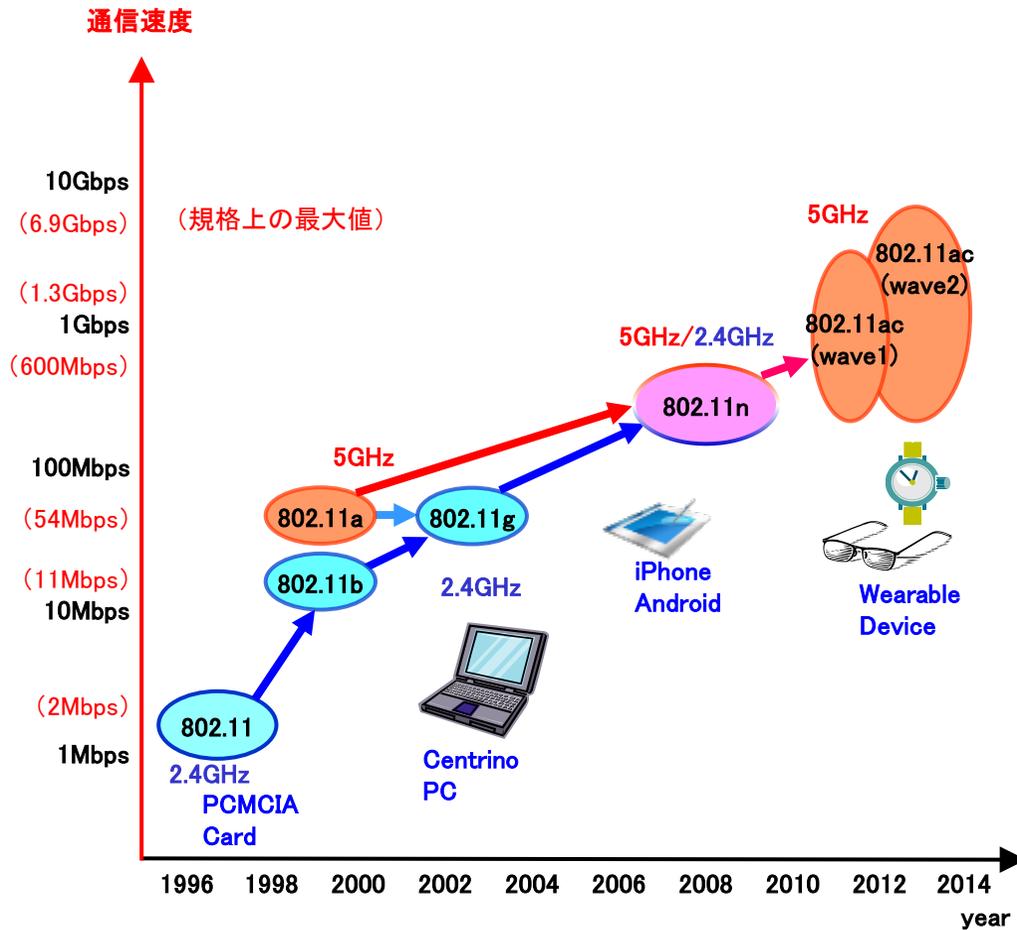
③ ホーム画面にもどって、フラグを立て上げます。

④ この状態が表示されますので、「インターネットに接続する」ボタンより接続してください。



技術推移

特徴



① サービスエリアはスポットだが高速
54M⇒600M⇒6.9Gbps

② 世界共通<デファクトスタンダード・下位互換>
多数の標準規格(11, 11a~11z, 11aa~)があり、
下位互換が可能

③ 接続性・セキュリティの強化
SIM認証 等

④ アンライセンスバンド・広帯域
アンライセンスバンド(2.4G/5G)